

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立八田荘老人ホーム	
(2) 施設の設置目的	
おおむね65歳以上で、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な者を入所させ、養護するとともに、その者が自立した日常生活を営み、社会的活動に参加するために必要な指導及び訓練その他の援助を行うための施設として設置	
(3) 所管部局	
健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課	
(4) 指定管理者名	
社会福祉法人南の風	
(5) 指定期間	
平成29年4月1日から平成32年3月31日まで（4年間）	
(6) 主な事業	
入所者を養護するとともに、入所者が有する能力に応じ自立した日常生活を送れるよう必要な指導、訓練及び援助を行っている。	
(7) 有料施設の有無	
無	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
概ね65歳以上で、環境上、経済上の理由で居宅での生活が困難な者	不特定多数 (入所定員120人)
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
養護老人ホーム 福生園	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

「地域に開かれた施設」を重要な役割の一つとして捉え、地域の実施する清掃活動への入所者の参加の促進や施設行事への地域住民を招待するなど、地域との交流活動に熱心に取り組んでいる。また、ボランティアコーディネーターを配置し、地域のボランティアの積極的な受け入れや隣接する中老人福祉センターの利用者との交流活動にも取り組み、入所者が地域の方と関わる機会を通じて入所者の社会参加の支援に繋げている。

(2) 利用者サービス(単位:円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
指定管理者名	社会福祉法人 南の風	社会福祉法人 南の風	社会福祉法人 南の風	社会福祉法人 南の風	社会福祉法人 南の風
ア 利用者数 (人)	118	114	113	114	/
イ 稼働率 (%)	98	95	94	95	
ウ 利用者満足度 (%)	—	—	—	—	
「利用者サービス」における市による状況分析	新規入居者の減少により、稼働率が一時低下していたものの、指定管理者の積極的な広報活動や区役所との連携により向上に転じ、平成28年度よりも若干、稼働率が上がっている。				

(3) 収支状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
ア 収入	指定管理料	215,417,000	217,372,000	220,501,000	220,500,000	220,500,000
	利用料金	0	0	0	0	0
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	2,125,400	2,387,865	1,659,164	1,327,323	2,084,000
合 計		217,542,400	219,759,865	222,160,164	221,827,323	222,584,000
イ 支出	人件費	87,644,722	91,906,495	95,032,043	96,682,105	98,620,000
	委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合	61,040,848 (29.1%)	60,069,882 (28.5%)	61,519,211 (29.1%)	61,180,379 (28.4%)	62,600,000 (28.2%)
	その他経費	60,788,481	58,711,271	54,331,461	57,662,861	60,640,000
合 計		209,474,051	210,687,648	210,882,715	215,525,345	221,860,000
利用者一人当たりの支出額		1,776,710	1,841,675	1,866,219	1,890,573	—
ウ 収支差額		8,068,349	9,072,217	11,277,449	6,301,978	744,000
エ 市への納付金の額		—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合 の徴収額		—	—	—	—	—
「収支状況」における市による状況分析		人件費については、平成28年度よりも若干、上昇しているが、人件費については、入所者の処遇に直結するものであることから、入所者サービスの低下を防ぐためにはやむを得ないと考える。その他の管理費についても、予算の範囲内で適正に運営されており、安定した収支状況を維持することができている。				

3 目標管理、評価等

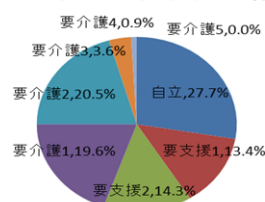
(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	介護予防への取組	(設定理由) 入所者の加齢により身体能力や認知機能の低下が進んでおり、入所者のホームでの自立した生活の支援が必要である。
	目標	・介護予防を目的とした集団指導教室の開催 年間50回(概ね週に1回) ・介護予防についての研修を受けた職員の割合 100%	(設定理由) 介護予防への取り組みの充実を図ることが、急激な能力低下を防ぎ、入所者の日常生活の自立支援に繋がるため。
	実績	・介護予防を目的とした集団指導教室の開催 年間150回 ・介護予防についての研修を受けた職員の割合 90%	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 介護予防を目的とした集団指導教室を目標の50回を上回る150回を実施しており、評価することができる。

平成28年度 入居者要介護状況



平成29年度 入居者要介護状況



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項

入所者の加齢に伴い、要介護状態の方が増えていることから、国基準以上の生活支援員を配置し、職員のスキルアップに努めるとともに、入所者の身体状況を把握し、必要に応じて、在宅サービスを強化するなどの対応を行っている。施設の修繕については、昨年度よりも少額なものは件数が減少しているが、今後、大規模な修繕は増加傾向にあると思われる。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

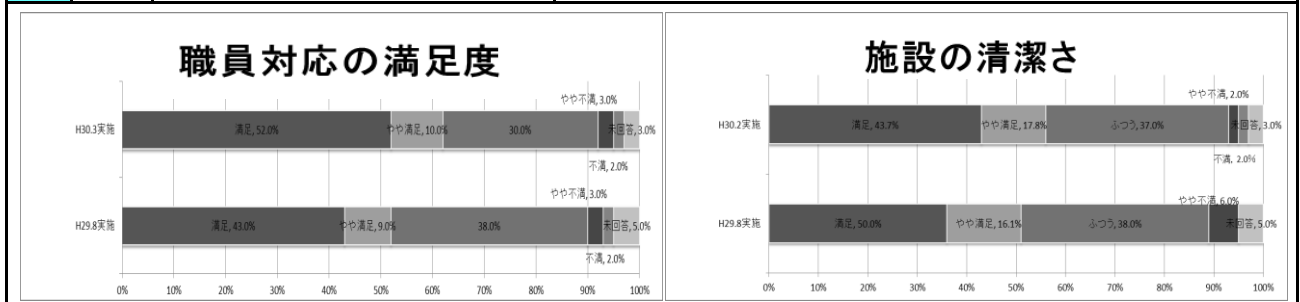
意見箱による意見聴取の他に、年2回、生活全般のアンケート調査を実施し、この結果をもとに改善可能かものは改善し、入所者の意見をできるだけ、管理運営に反映させている。また、入所者からの苦情等については、ここ数年0件となっている。

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A	A	
	具体的な理由	自立施設という性質上、少しでも自立生活の継続するため介護予防・認知症予防の活動に重点を置き、運営を行いました。その結果、市及び法人が目標としている介護予防の活動回数を上回る結果を残す事が出来た。	介護予防及び認知症予防の活動を積極的に行い、目標を上回る取組がされている。介護予防についての研修は、目標を達成できなかったが、多くの職員が参加しており、一定の努力が見られる。また、入所者からの苦情はここ数年0件であり、入所者の意見や要望についても確認し、その意見を管理運営に反映しながら、入所者の処遇計画をはじめ、施設の維持管理、人員配置においても基準以上の介護職を配置するなど、全般的な施設の管理運営が適正に行われている。	
対応策等	介護予防及び認知症予防に関しては、積極的な活動を行い、市の目標である50回を大きく上回る150回の取り組みを行うことが出来た。	今後も、介護予防及び認知症予防に関して、積極的な活動が図られたい。また、入所者の加齢に伴い、更なる身体機能や認知機能の低下が予測されるため、入所者の正確な状況を把握し、事故防止等に努力されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	入所者の満足度	(設定理由) 入所者への処遇サービスの向上を図りながら、一定の入所者数を確保する。
	目標	・職員の対応 不満割合10%未満 ・施設の清潔さ 不満割合10%未満	(設定理由) これまでの実績から考慮
	実績	職員の対応について「不満」「やや不満」を合わせて平均5%、施設の清潔さについて「不満」「やや不満」を合わせて平均5%	(分析) 職員の対応、施設の清潔さ、ともに不満割合は目標より低く、一定の評価をすることができる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項

引き続き、介護予防のはつらつ体操や趣味講座などにおいても、歌教室や折り紙などを実施し、居室への閉じこもりの防止と楽しみながら、介護予防につながるような取り組みを実施している。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

入所者からのアンケート調査などの結果をもとに、設備や食事の献立の改善や味付けに工夫をしている。

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A	評価	B
	具体的な理由	日常生活で困っている方の介護サービスの充実を、入居者の個人面談や日常の相談等を行うことによりサービス量が昨年度を上回る結果となった。また、アンケートにて職員の対応等については市及び法人の目標を上回る結果を残す事が出来た。	食事に関するアンケートを年2回、生活全般に関するアンケートを年2回実施しており、入所者ニーズに沿った事業展開がされている。また、アンケートとは別に毎月、生活全般に関する意見の直接聴取、意見箱による間接聴取を行っており、意見聴取の結果を入所者懇談会で議題として話し合い、改善がされている。	
対応策等	年間で全入居者を対象とした個人面談を年2回実施し、生活ニーズのヒヤリングを行い実施することで、生活の充実を図ることが出来た。職員の対応については、サービスマナー研修を行う等、常日頃から意識することでアンケートにて市の目標である不満割合10%以下を上回る5%と結果を残す事が出来た。	次年度も引き続き、入所者ニーズに即した事業展開に努められたい。また、職員研修を積極的に実施し、入所者が快適に過ごせるよう、引き続き努められたい。		

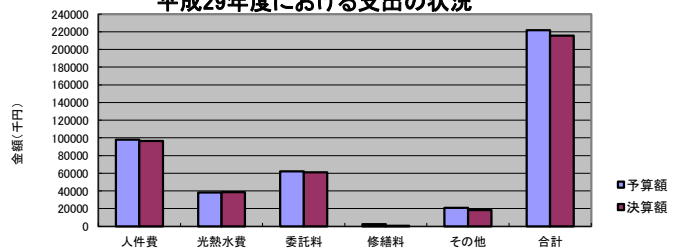
評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	経費削減に向けた取組み	(設定理由) 経費削減の取組みが重要なため
	目標	予算を適正に執行したうえで、入所者サービスを充実させる。	(設定理由) 入所者のサービスの質を落とすことなく、経費削減を図る。
	実績	施設の修繕は、24件と若干増加傾向にあるが、修繕料は、予算額より1,683千円削減することができた。	(分析) 全体として予算内で執行できており、当初の収支計画どおりに適切、適正に執行できている。 ※目標未達成時は詳細な原因分析

	(単位: 千円)	
	予算額	決算額
人件費	97,840	96,682
光熱水費	38,400	38,657
委託料	62,300	61,180
修繕料	2,400	717
その他	20,920	18,290
合計	221,860	215,526

平成29年度における支出の状況



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項

特になし

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

特になし

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A	評価	B
	具体的な理由	指定管理料の予算内での適正な施設運営を行うことが出来た。今年度については、水光熱費については、気温の関係上昨年度を上回ったが、その中でも出来る限りの省エネに努めることが出来た。	気温等の変動により、光熱水費は若干の増額であったが、全体として予算内で執行できており、安定的な運営ができています。	
対応策等	水光熱費に関しては、支出の全体の15~18%を占める割合のため、出来る限りの省エネを行っている。特に夏・冬の気温により、大きく変化するため、エアコン等の時間調節や気温設定を行い、入居者のサービスの質は落とさず、事務部分を中心に行った。	入所者サービスの質の低下や入所者の安全性が損なうことのないよう、十分に注意しながら、経費節減に取り組み、安定的な経営状況を維持していただきたい。そして、削減できた経費を更なる入所者サービスの向上に役立てていただきたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの